

2017年11月6日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 升本 潔

インド国トゥルガ揚水発電所建設事業
(協力準備調査(有償))
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2017年10月27日(金) 14:00~16:23
- ・場所：JICA 本部(1階 111会議室)
- ・ワーキンググループ委員：石田委員、加藤委員、久保田委員、日比委員、升本委員
(加藤委員はメール審議にて参加)
- ・議題：インド国トゥルガ揚水発電所建設事業(協力準備調査(有償))に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・配布資料：インド国トゥルガ揚水発電所建設事業 SC 案回答表

- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第85回委員会)

- ・日時：2017年11月6日(月) 14:30~16:07
- ・場所：JICA 本部(113会議室)

上記の会合に加え、メール審議により助言を確定した。

助言

全体事項

1. 上池—下池間の流量の予測・算出においては、今後の気候変動の不確定性を考慮すること。

スコーピング・マトリックス

2. 移転が必要となる小規模ヒンズー教礼拝所について、建設中の一時的な立地場所や完工後に元の場所に戻す計画について、宗教的な配慮がされるよう DFR で移転計画案を示すこと。
3. 貯水池の建設後、発生が懸念されるメタンの主要な発生源について確認し、DFR に記載すること。

社会配慮

4. 本事業予定地周辺の「指定部族」を含む地域住民については、今後の社会経済調査において状況を把握し、その結果、社会的・経済的に脆弱であると判断される場合、JICA ガイドライン上の社会的弱者として必要な配慮策を検討すること。
5. 児童労働が起きうる労働内容を確認し、児童労働を禁止するインド国内法の規定を遵守するよう実施機関と協議すること。
6. 非木材林産物を含む森林の資源利用の現状を調査し、影響が想定される場合は緩和策を講じ、調査結果とともに DFR に記述すること。

その他

7. 既設のプルリア揚水発電所の工事中・操業時の正負の影響について確認し、本事業の参考にするため DFR に記述すること。

以 上